

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1872000409		
法人名	社会福祉法人 敬老会		
事業所名	アクティブケア一宮崎(だんらん)		
所在地	福井県丹生郡越前町小曾原33-34		
自己評価作成日	令和 3年 9月 1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	令和 3年 9月 29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内の広い庭園や各ユニットから眺められる景色などから四季折々の風景が楽しめる。入居者様の思いを尊重し個別ケアに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は福井県陶芸館の近くに位置している。当事業所に入るための木造の門から玄関までは、広い日本庭園を満喫することができる。今年度の宮崎地域コミュニティ運営委員会の企画に、この庭園にあるハナミズキの写真を応募している。平屋で日本建築の内装は、廊下が広く、壁の飾り棚に様々なアイデアの作品を飾っており、歩行訓練の楽しみになっている。各居室からウッドデッキに出て他の居室に行き来することができる。また、居室は、家族写真や手作り作品等のレイアウトが個性的で居心地よい空間となっている。コロナ禍で交流ができない現状を踏まえ、地域との交流の場を設けることを検討した結果、理事長の私有地に新しい公園を造成中である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	方針目標・理念をスタッフルーム及びホールに掲げ、職員が意識できるように心がけている。	法人理念を事業所理念とし、玄関や共用空間・事務所等に掲げ意識している。行動目標を職員間で話し合い、作成している。	理念をホームページやパンフレット・機関誌に記載し、地域住民や家族に説明する機会が持てるよう期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の祭事など参加していたが、コロナ感染症拡大予防のため、行事が中止になっているため、つきあいがとれていない。	コロナ禍ではあるが、理事長は地域住民との交流の場が必要と考え、事業所の近くの私有地に公園を造成中である。認知症カフェ「はなみずきCAFÉ」を再開したいとも考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職場体験、認知症カフェ等おこなう予定だったが、コロナ感染症拡大予防のため、行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、会議を実施することになっているが、コロナ感染症拡大予防のため実施されていない。資料のみ関係者に送っている。	コロナ禍ではあるが、去年は2回開催したところ、参加者から積極的に意見が出た。現在は資料を送付し意見をもらっている。今後は家族にも議事録を配布し、理解や意見をもらえるように心がける。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	メール、電話等で直接担当者に連絡を取り合っており意見助言をいただいている。	町職員と親身に相談に応じてもらえる関係性であり、事業所の実情を伝え、問題解決に向けて取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束的適正化委員会を設け、三ヶ月に1度委員会を行っている。法人内の研修等にて学んでいる	3か月ごとに身体拘束適正検討委員会を開催し、職員会議等で報告している。スピーチロックについて職員アンケートを実施し、集計後に問題点を把握し、再度アンケートを行い改善策を話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人にて虐待防止の委員会を設け、研修等にて虐待について学び防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修にて権利擁護について学び、防止に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時など管理者がご家族の方に直接説明し、理解、納得をしていただけているようにしている。改訂時には、文面・口頭にて説明し承諾書をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン更新時には家人とカンファレンスを行うことになっているが、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、緊急時以外のカンファレンスは行っていない。電話にて近況を伝え、要望や意見を伺っている。年1回お客様アンケートを実施し、運営に活かしている。	毎年運営に関する家族アンケートを実施し、コロナ禍における意見も回収している。ウッドデッキで行う窓越しの面会や電話・LINE動画での面会の際にも意見を聞き、運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善提案書を活用し、意見や提案を聞き入れ業務に活かしている。年3回面談を行い、普段から話を聞く姿勢をとっている。	日常的に意見を言いやすい関係を持ち、日頃の気づきを申し送り書に記録している。業務改善提案書を積極的に提出するようにしている。ヒヤリハット報告書も1か月ごとにまとめ、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望を可能な限り聞き入れ、実施したいケア内容など取り入れられるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要かつ、希望する資格取得に向けての受講を推奨したり、施設外での研修を案内し受講を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会しているが、年3回あった連絡会は新型コロナウイルス感染症拡大予防のため行われていない。リモートを活用した講演会等には参加できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談し、話をするように心がけている。体験入所も出来る。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談の時に不安なことや困っている事、ご要望などをお聞きしより良い関係ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅マネージャー等と情報等をきくなど連携をとり、安心してサービスが受けれるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることや昔されていた事などを把握し、提供できるよう職員で努めている。役割を持って頂けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診は家人に協力していただいている。大掛かりな外出等は家人の付き添いをお願いしているが、新型コロナウイルス感染症禍で、面会中止、外出自粛が続いており家人と会える機会が減っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、面会中止、外出自粛が続いており、支援ができていない。	コロナ禍で面会が難しい状況であるが、窓越しで面会ができ、家族や地域住民も訪れている。家族と行きつけの美容室へ出かけたり、年賀状のやり取りは継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの座席の位置や行事など、気の合う方や会話ができるかたなど座席の位置に気を配っている。おとなしい方や一人になりがちの方などは、職員が間に入り関わりが持てるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後であっても、相談・支援の協力を家人に知らせてある。家人に会った時は様子を伺うなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの希望、要望があった場合、また普段の様子から思いをくみ取り、職員間で情報を共有し、組み入れるよう努めている。	思いや意向を日頃の会話の中から汲み取り把握している。外出希望が叶わない場合、利用者の表情が暗く、認知症も進行するため、気分転換をできるよう対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご家族、本人から情報収集を行い生活歴やなじみの暮らしの把握に努めている。また居宅ケアマネージャーと連携しサービスの利用経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の行動や身体の状態をしっかりと観察し、職員間で情報を共有しながら現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の暮らしの中で気づいた事など申し送り等行いながら現状に合った介護計画を作成している。	介護計画のサービス支援内容の項目を日々の記録で確認し、1か月ごとにモニタリングしている。3か月ごとにカンファレンスで見直し、現状に即した介護計画になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録や申し送りの記録、モニタリングなどから職員間で情報を共有し、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時対応は、本人や家人の意向を聞き、柔軟に対応している。状況がかわっても、その時々生まれるニーズにも対応できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、慰問は行っていない。散髪は地元的美容院にや頼み、生け花も地元の方に講師を依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームに入所の方は、法人内病院がかかりつけ医となるが、希望で入所前のかかりつけ医を希望されれば希望を聞き入れている。	協力医に毎週の往診や電話での相談ができ、安心した医療を受けることができている。かかりつけ医への受診は、利用者の情報を記載した書面を渡したうえで、家族が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師と介護士が日々の状態を把握し、状態によって受診・往診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、医療関係者と情報提供を行い情報を共有している。管理者、または看護師が退院後の生活について医療関係者、地域連携のスタッフと話し合ってる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居説明時に看取りについて説明している。段階的に状況を家人に説明し意向を聞いて、医療機関との連携しその都度意思を確認しながら支援できるようにしている。	看取りの支援ができることや家族の希望で関連の病院・介護老人保健施設へ移行できることを説明している。看取りに必要な内部研修も開催し、職員の技術の向上や不安の緩和につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の緊急救命講習を年1回受講。各ユニットに応急処置のマニュアルを置いてある。事故発生時の処置・連絡網を掲示してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防火訓練、年1回原子力被災訓練を行っている。防火防災委員会を設け備蓄等災害時の準備を行っている。地域住民との避難訓練を行いたいが、新型コロナウイルス感染症禍により実行できていない。	夜間も含めた年2回の避難訓練と原子力被災訓練では、養生テープで窓の隙間を埋めたり、利用者の医療関係の物資を持ち出し方を確認している。マニュアルには地震・風水害の対応も記載している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束的適正化委員会にてスピーチロックについて学び、職員の意識向上を図っている。	理念には「笑顔で優しい言葉・親切で思いやりの態度で接し一人ひとりの個性を大切に」を謳っており、人格の尊重とプライバシーの確保ができるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方が自己決定できるよう、会話、関わりの時間を設け、うまく伝えられない方には、表情屋、態度をみて思いが解るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、午睡を嫌がる方にはホールで過ごしていただいたり、逆に居室で過ごされたい方は居室で休んで頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪を染めたい方は美容室にお連れしている。入浴準備をご自身で選べる方には準備していただいている。ご自身で選べない方は、同じ服ばかりにならないよう職員が選んで準備している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な下処理は手伝ってもらっている。行事食は利用者様に作ってもらうなど楽しみを持ってもらっている。お寿司や、テイクアウトなども利用し喜んでいただいている。	朝食と昼食は職員が調理している。夕食は、利用者ができることを職員が手伝いながら食材を調理している。キュウリ・なす・トマト・さつまいもを菜園より収穫し、焼肉・餅つき・ほうば飯等の行事食も利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事時以外に、水分補給を4回設け、必要な水分摂取量の確保を心がけている。肉・魚・野菜等を偏らないよう献立に取り入れている。お粥・刻みなど入居者の能力に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、不十分なところは職員が介助している。夜間は入れ歯洗浄剤を使用。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間のみおむつ使用者が数名おられるが、日中はトイレでの排泄介助を行っている。尿量や排泄頻度を把握し、トイレ誘導の回数、パット類の検討・変更を行い、その方に合った物を使用している。	個々の排泄パターンを把握し、車椅子の利用者もトイレで介助している。夜間のみのおムツ使用者やポータブルトイレ利用者も、日中はトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前中にラジオ体操、午後にはリハビリ体操を取り入れ体を動かすように促し、食事には野菜を多く取り入れ、乳製品も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回午前中に入浴していただいている。1番湯を好まれる方、時間をかけて入りたい方などその方の希望に沿って入浴順番を決めている。職員数の都合で、午後からの入浴もある。	日曜日以外は入浴日で、体調に合わせて入浴し、入浴剤も好みに合わせて使用している。自作のへちまを使用した際は、懐かしいと喜ばれた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転等ならないよう、日中の活動を促し、1日のリズムを整え、夜間良眠できるよう支援している。体調等観察し無理のないように休んでいただく等している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を全職員が把握し、日々の症状を確認し、医師に相談、受診を行い薬の管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歩行可能な方とは、朝のごみ捨てを職員と一緒に手伝ってもらったり、配膳や、掃除、洗濯などを手伝ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿って外出することは難しい。前もって計画し出かける支援はしていたが、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、外出が困難になっている。	コロナ禍で外出は困難であるが、今年は秋祭りを事業所で開催予定である。居室から庭園が見え、四季を感じることができる。花見や田畑の移り変わりの鑑賞、近所での柿もぎ等により、利用者は気分転換ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本ホームには現金は置かない、預からない事になっており、個人の買い物は家人に頼んだり、立て替えたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家人に連絡を取りたい方にはホームの電話を使用してもらっている。通話が困難な方には職員が変わって伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール、廊下には季節にあった作品や写真等を飾り付けしている。	日本庭園を満喫できる平屋の建築で、各居室や共用空間からウッドデッキに出て気分転換ができるようになっている。共用空間には四季の手作り作品や写真を掲示している。廊下は広く、壁の飾り棚には利用者が楽しめるよう作品を置いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全員が集まれるテーブルの配置や、一人で過ごせる空間に椅子を設置するなどしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具類を持ち込んでいただいている。家人の写真や本人が作成した作品を飾っている。	エアコン・空気清浄機・ベット・洗面所・押し入れロッカーを設置している。利用者は、テレビ・ダンス・位牌・机・いす等を持ち込んでおり、写真や作品等のレイアウトが個性的で居心地よい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身の居室、トイレの場所が解るよう目印をつけている。ホールのテーブルの位置など歩行器や車椅子の方が座りやすい位置や移動しやすいようスペースを空けている。		